

P-33

十全大補湯，補中益氣湯による コルチゾンの副作用軽減作用

^{a)}静岡県立大学薬学部，^{b)}中国中医研究院中薬研究所，^{c)}株式会社津村順天堂
○亀田幸明^{a)}，杉山清^{a)}，横田正実^{a)}，張思巨^{b)}，畢穎^{b)}，市尾義昌^{c)}

目的 扶正祛邪とは中国伝統医学の疾病治療の原則である。祛邪とは病因の除去のことで、扶正とは虚証に対する治療概念で、罹病による人体の気、血、津の機能失調（虚証）を回復させることである。薬物療法では、気、血、津の機能に関係した中薬より構成されている十全大補湯，補中益氣湯等の補薬方剤が繁用されている。扶正の概念は中国伝統医学独特のもので、西洋医学的にはホメオスターシスの維持、回復、免疫増強などと考えられている。しかし人体の気、血、津の機能に基づいた扶正概念に関する研究は見あたらない。近年、各種薬物の副作用軽減のために漢方方剤が用いられている。薬物の副作用による各種の機能異常は人体の気、血、津の機能異常とも考えられる。本報では扶正概念に科学的な根拠を与えることを目的として、補薬方剤のコルチゾン（以下 Cor と略記）により起こる機能異常の回復作用について検討した。

方法 第1日目に Cor 35 mg/kg を ddy 系雄性マウスに皮下投与し、Cor 投与群に十全大補湯及び補中益氣湯湯液、各々臨床使用量の10倍量を第1日目より5日間、1日2回に分け経口投与した。6日目に胸腺を摘出し、重量を計測し、対照群、Corのみ投与群と比較した。また、両方剤の構成中薬中、共通しているもの（人參、黄耆、当歸、甘草、白朮）について同様の作用を検討し、更に作用の認められた中薬についてはその有効成分の検索をも行った。

結果 十全大補湯，補中益氣湯投与で共に Cor 投与による胸腺萎縮を有意に回復させた。また、両方剤構成中薬のうち、甘草煎液（中薬として 0.6 g/kg/day），黄耆煎液（中薬として 0.4 g/kg/day）は各々経口投与で Cor による胸腺萎縮を有意に回復させた。甘草中の有効成分はグリチルリチンであり、50 mg/kg/day 経口投与で有効であった。

結論 繁用される補剤，十全大補湯，補中益氣湯には Cor による胸腺萎縮を回復させる作用が認められ、構成中薬の内甘草と黄耆にその作用が認められた。甘草中の有効成分はグリチルリチンであった。作用の認められた甘草及び黄耆は共に補気薬に分類されており、気虚証と本作用との関係に興味がもたれる。